

III. 平成 14 年度事業計画書（概要）〔案〕

事業名	事業概要
第 55 回通常総会	第 81 春季年会（平成 14 年 3 月 26 日（火）～29 日（金）早稲田大学西早稲田キャンパス）の会期 2 日目、27 日（水）同所で開催予定。おもな上程議案として、13 年度事業報告及び収支決算・14 年度事業計画及び予算・14 年度役員選任および名誉会員推薦の承認、各賞選定結果の報告等。
役員会等 ■理事会 ■顧問会 ■相談役会 ■支部長・部会長	<p> 本会運営の要として、本会事業活動を担っている各部門・委員会状況を確認すると共に重要課題につき審議する。さらには支部・部会・化学教育協議会を含めた会務の運営につき将来展望も加味して協議、指針を示す場として、概ね隔月に年 6 回開催予定。 </p> <p> 会長経験者をもって組織し、本会運営上の重要課題につき大所高所から意見を伺う場として、1 回開催予定。有力法人会員社長約 20 名をもって組織し、本会運営上の重要課題につき産業界からの立場から意見を伺う場として、1 回開催予定。 </p> <p> 支部・部会活動を確認すると共に本部としての運営指針等を伝達、また意見交換する場として、2 回開催予定。 </p>
運営会議関係 ■運営会議 ■将来構想委員会 ■広報委員会	<p> 本会運営上の中長期的重要課題につき集中的に協議する他、運営会議に属する以下の委員会の課題につき協議する場として、6 回開催予定。 </p> <p> 本会運営上の中長期的重要問題につき、課題を絞って議論、指針として理事会に提案する。構成は役員を主として 10 名程度とし、必要に応じ随時開催する。 </p> <p> 内外に本会事業活動を積極的に広報する。春・秋季年会の他広報すべき課題が生じた都度、適宜記者会見等を行い、情報の提供に努める。また、化工誌「コラム化学会発」欄を企画・協力する。 </p>
会務部門 ■会務部門会議 ■会員委員会 ■財務委員会 ■職員人事委員会 ■学会賞等選考委員会 ■学術賞選考委員会 ■化学技術賞等選考委員会 ■化学教育賞等選考委員会	<p> 本会の委員会活動を 3 部門の下に統括し、部門長（副会長）に権限を任せ、会運営の合理化・効率化を図った。会務部門に属する委員会は次のとおりであるが、委員会の枠を越えた課題については必要に応じて会務部門会議で協議し、理事会に提案する。 </p> <p> 会員の増強につき諸施策を検討、実施することを任務とし、3 回開催予定。また、本年度はより簡便・迅速に対応可能な会員システムの構築について検討することになっている。 </p> <p> 本会の事業計画に基づく予算案の取りまとめ、及び事業遂行に伴う決算諸表を作成する他、本会の中長期的財務見直しについても審議する。6 回開催予定。 </p> <p> 事務局職員の採用、服務、待遇、人事に関する事項の審議を任務とし、課題が生じた都度、随時開催する。 </p> <p> 学会賞、進歩賞（各 6 件以内）の受賞候補者の選考を任務とし、しかるべき手続きを経て決定した受賞者は、通常総会で表彰される。部門別選考委員会 1 回（郵便投票）、選考委員会 1 回開催。 </p> <p> 学術賞（12 件以内）の受賞候補者の選考を任務とし、しかるべき手続きを経て決定した受賞者は、通常総会で表彰される。部門別選考委員会 1 回（郵便投票）、選定委員会 1 回開催。 </p> <p> 化学技術賞（5 件以内）、技術進歩賞（3 件以内）、化学技術有功賞（若干数）の受賞候補者の選考を任務とし、しかるべき手続きを経て決定した受賞者は、通常総会で表彰される。選考委員会 2 回（1 回は郵便による審議）開催。 </p> <p> 化学教育賞（3 件以内）、化学教育有功賞（5 件以内）の受賞候補者の選考を任務とし、しかるべき手続きを経て決定した受賞者は、通常総会で表彰される。選考委員会 1 回開催。 </p>
研究交流部門 ■研究交流部門会議 ■学術交流委員会 ■学術研究活性化委員会 ■国際交流委員会 ■春季年会実行委員会 ■秋季年会実行委員会 ■DB 事業委員会 ■化学関係学協会連合協議会	<p> 研究交流部門に属する委員会は次のとおりであるが、委員会の枠を越えた課題については必要に応じて研究交流部門会議で協議し、理事会に提案する。 </p> <p> 国内の化学関係学協会・諸団体、官公庁、日本学術会議、化学技術戦略推進機構などとの交流を任務とし、1 回開催予定。 </p> <p> 化学研究の更なる活性化を目指し、先端研究の推進、年会活性化、部会、研究会戦略の検討・推進、研究分野調査と研究テーマの提案、学際・境界領域の新分野発掘と推進策の検討等を任務とし、4 回開催予定。 </p> <p> 国外の化学関係学協会、国際機関などとの交流を任務とし、現下の活動状況としては環太平洋国際化学会議等の国際会議関係、IUPAC・アジア化学会連合等の国際機構との協力、日伊両国交流促進を図る“南方—アボガドロレクチャー”等を行っている。1 回開催予定。 </p> <p> 本会の学術発表活動の最大行事である。“春季年会”の企画、実行を担い適宜開催。目下、第 81 春季年会（2002）に続き第 83 春季年会（2002）の検討が開始された。 </p> <p> 各支部持ち回りで開催する“秋季年会”は、開催支部に実行委員会が設置され、企画から実行までを担う。委員会は適宜開催。 </p> <p> 討論会・部会等を積極的に呼び込み、かつ支部の活性を目指す。なお、目下、第 82 秋季年会（2002）の準備が進行中。なお、秋季年会は平成 14 年度をもって廃止予定。 </p> <p> 旧コンピューター統括委員会の一任務であった、研究者 DB をはじめ web を利用した事業の推進とこれら事業の管理を任務とする。 </p> <p> 学協連の共通の課題の検討及び国への提言を行うため、各学協会の会長をメンバーとする理事会及び政策会議で検討を行う。理事会 2 回、政策会議 4 回開催。 </p>

事業名	事業概要
学術情報部門 ■学術情報部門会議 ■化工誌編集委員会 ■欧文誌編集委員会 ■速報誌編集委員会 ■季刊化学総説 ■論文誌電子化委員会 ■化学系学協会刊行フォーラム	<p>学術情報部門に属する委員会は次のとおりであるが、委員会の枠を越えた課題については必要に応じて学術情報部門会議で協議し、理事会に提案する。</p> <p>機関誌として会員から親しまれ、読みやすい「化工誌」の発行を目指す。編集委員会は8回開催予定。月1回、年12冊発行。総頁数2,040頁、総発行部数372,000部予定。</p> <p>「欧文誌 (Bulletin of the Chemical Society of Japan) 編集委員会は2回、幹事会12回開催予定。月1回、年12冊発行。総頁数2,952頁、総発行部数37,200部予定。</p> <p>「速報誌 (Chemistry Letters)」編集委員会は3回開催予定。月1回年12冊発行。総頁数1,752頁、総発行部数43,200部予定。</p> <p>13年度中に50巻を刊行した。これを一応の区切りとし、その後の日本語による総説誌発刊については改めて検討する。編集委員会は3回開催予定。</p> <p>学術情報部門傘下の会誌、論文誌の電子化とその管理運営、メンテナンスを任務として旧コンピューター統括委員会の任務を引き継ぐ。委員会は4回開催予定。</p> <p>8化学系学協会が連帯して「化学系学協会刊行フォーラム」を結成し、Accounts主体の英文総合論文誌「The Chemical Record」を2001年1月から年6冊web版と併せ発行している。1回開催予定。</p>
産学交流部門 ■産学交流委員会	<p>本会の産官学の交流に関する事項を任務とする。</p> <p>本会有力法人会員約90社をメンバーに、年会の活性化や本会の運営に産業界からの立場で活発に諸提言を行うことを任務とし、春季年会での講演奨励賞の選定、特別企画及び“化学テクノフォーラム”の企画と実施等を通じて年会の活性化に努めている。また、“産業交流会”“研究所長フォーラム”、“技術開発フォーラム”を実施している。</p>
■環境・安全推進委員会	<p>環境・安全問題に関する事項についての審議と事業の推進を図ることを任務とし、2回開催予定。</p>
■化学技術者教育委員会	<p>技術者教育認定機構(JABEE)対応及び、技術者継続教育に関する事項について審議と推進を図ることを任務とし、3回開催予定。</p>
化学教育協議会 ■役員会 ■化教誌編集委員会 ■化学普及事業 夢・化学-21事業 化学コンクール	<p>「役員会」(2回)、「運営委員会」(5回)、「支部協議会議長会」(2回)、「学校教育委員会」(2回)、「普及・交流委員会」(2回)を開催する。その他、「国際関係小委員会」(3回)、「高校化学グランプリ・国際化学オリンピック小委員会」(3回)及び目的を明確にした13のWGをそれぞれ3~5回程度開催する。また、今年度は、化教誌50巻記念特集を5カ月組む。</p> <p>“化学教育協議会”の機関誌として、「化学と教育」誌を月1回、年12冊発行。投稿・依頼原稿の受理・審査に当たる編集委員会(4回)、化教誌誌面充実に向けてのWG設置、実施。</p> <p>総頁数840頁、総発行部数52,200部予定。</p> <p>「全国高校グランプリ」,「全国中学作文コンクール」,「夏休み子ども実験ショー」,「大学・高専化学実験体験教室」,各地区での各種「講演会」を実施する。</p> <p>日本科学未来館と共催で、木炭電池による自動車レースを行う。</p>
支部事業	<p>全国7支部で化学教育啓発・普及事業を始めとして各種講演会、講習会等多数の諸事業を活発に実施。</p>
部会事業	<p>コロイド・界面化学部会、情報化学部会、生体機能関連化学部会、バイオテクノロジー部会、有機結晶部会の5部会では、ニュースレターの発行、シンポジウム・講演会・講習会等の諸事業を実施。</p>
特別事業 ■創立125周年記念事業	<p>2003年に本会創立125周年を迎えるに当たり、次の記念事業の準備を行う。記念式典・ノーベル化学賞記念国際フォーラム、記念祝賀会の開催、英文史・化学普及書の刊行、各支部で開催するミニ化学展、講師派遣等の化学教育・化学普及事業。</p>